

情熱的な結婚

瀬川早苗

千葉県・三六・主婦

◎◎◎優秀賞

「ねえ、私のどこが好き？」「うーん、キライな所ないから全部好き」。
これが、結婚して一二年たち、顔中シミだらけで、体重も確実に増え続
けている私に対しての、夫の言葉です。〃全部好き〃なんてあるわけな
いのに……と思っていたが、尋ねるたびにそう答えるので、もしか
したら本当にそうなのかな、と、この頃は素直に思えるようになりました。
た。

私が夫と出会ったのは二四歳の時、最初のお見合いでした。それまで
私は、見合い結婚なんて、学歴だの家柄だのと、何か打算的な感じがし
ていたの、自分は絶対、恋愛結婚で、それも駆け落ちするぐらいの
——と思っていたのですが、一度ぐらいお見合いしてみるのも悪くない
か、と好奇心も手伝って、夫に会ってみたのです。夫の印象は、特にス
テキと思えるような所もなく、ただ穏やかさそうで、素朴な感じに見えま
した。一方私の方は、いつも賑やかなジャジャ馬で、人見知りなどした
ことがないというのが自慢でしたが、なぜかその時は、いつもの調子が
出なくて、いろいろな話をしながらも「はい」と「いいえ」の返事をす
るだけで、精一杯でした。「私は良いと思います」と別れ際に夫に
言われたので、その後しばらく電話や手紙のやり取りが続き、いよいよ
見合いの返事をしなければならぬ時が来ました。「どうしますか」と
いう夫に、「私は、情熱的な結婚がしたいのです」と答えました。する

と「たった一度の見合いで、この人だと決めたのです。これ以上情熱的な結婚はありませんか」と夫が言ったのです。その言葉で私は決めたのかもしれません。この一二年間、平凡だけど、やはりとても幸せな毎日でした。私や子供のために、夫は精一杯頑張ってくれています。「ちゃんとしなきゃ」と言う私に「ちゃんとしてるじゃないの」と言い、「頑張らなきゃね」と言えば「そんなに頑張らなくても普通でいいよ」という人。私はあなたにもっともっと好きになってもらえるよう、ちゃんと頑張りたい”のです。